2. 法的脳死判定脳波検査のためのチェックシートについて

2-1）臨床検査技師が準備すれば役立つチェックシートにはどのようなものがありますか？

法的脳死判定脳波（ECI）記録は、通常の脳波検査と異なり、熟練した脳波技師でも難易度の高い検査です。そして、法的脳死判定脳波記録は、大半の技師が初めて遭遇する事例であり、事前に同様の経験を積むことは難しいと思われます。技師用のチェックシート（チェックリスト、記録票等）は、突発的に発生するかもしれないこのような特殊な検査を、ミスなく実施する良き手助けとなります。

そこで、1-2）法的脳死判定脳波（ECI）記録の必須遵守事項を考慮した“技師記録用チェックリスト”を例として掲載しました。

できるだけ良い参考資料になるよう、実際に提供施設で使われたチェックシート3例を呈示します。

①2－2）－A 例：順次丹念に手順をチェックして、ミスを少なくしようとしたチェックシート例（9P）

細かく丁寧に記述していますので、他の資料がなくてもチェック抜けがありません。

ただし、文量が多いので、細かすぎる点は自施設で省略していく工夫も必要です。

①2－2）－B 例：検証資料フォーマットを利用し、転記を必要としないチェックシート例（8P）

数ケ月から1年後くらいに行われる検証会議に提出する検証フォーマットを取り入れたチェックリストです。必要充分な事項が網羅されています。

医師が記入する欄もそのまま入っていますので、飛ばしていきます。

③2－2）－C 例：1枚にまとまった見やすい簡易的なチェックシート例（1P）

通常業務で、診断のためにポータブルで ECI 記録を依頼される時、訓練も兼ねて本番さながらにチェックシートを利用している施設や、法的脳死判定脳波を複数回実施した、などの経験値の高い施設では、上記の A 例や B 例より、この C 例のチェックリストがまとまっているので使い易いかもしれません。必要最小限の事項に絞ってまとめています。

法的脳死判定脳波検査は合計3回ありますので、チェックシートも3回作成することをしっかり念頭に置いて下さい。つまり、

（1）『脳死とされうる状態の脳波検査』

（2）『法的脳死判定脳波１回目』

（3）『法的脳死判定脳波２回目』

の3回となります。それぞれがすぐ分かるような表紙や見出しを作ることも大切です。

『法的脳死判定マニュアル平成 22 年度版』にも参考例が出ています。

『検証資料フォーマット(改訂版)』（第7章参照）は簡単には入手できませんが、ECIに関して遵守すべき条件や記述が満載されており、最も重要な資料の1つになります。

上記の A～C 例を参考に、これらをタタキ台として、必須遵守事項が入った各施設に合ったチェックシートを自作されることをお奨めいたします。作成過程でなにが基準となるか、なにを見逃してはならないかなどの事柄が浮かび上がってくるはずだからです。参考例も自施設で更新されている場合があります。

なお、法的脳死判定実施後に必要とされる各種の公式書類は、このシート記録からの転記となる場合多いといわれています。